かけこう

掛合分校
後援会
事務局
(0854)
62−0084

「掛合高校ここにあり。」

副校長
小川　剛

後援会の皆様には平素より掛高教育活動におきまして、物心両面にわたりご理解と多大なるご支援ご協力を賜り、誠にありがとうございます。

昨年四月、桜の花に囲まれた掛高に赴任してから早いもので一年が経とうとしています。その日、万感の思いを胸にここ佐中の丘を上ったことを、いま思い返しています。

私事で恐縮ですが、およそ二十年前この伝統ある掛高で勤務しておりました。平成十三年四月から十七年三月までのその四年間は激動の時代でした。

平成十五年十月十八日、創立五十周年記念式典並びに記念碑除幕式・記念樹植樹式を盛大に挙行しました。平成十六年は四月一日に三刀屋高校の総合学科新設、十一月一日に雲南市の誕生があり、掛高を取り巻く状況は大きく変化しました。その間、生徒減から廃校の危機に瀕したり、あるいは生徒増から独立校への昇格を陳情したりと幾多の波をくぐってまいりました。十三校あった県内の分校が次々と姿を消すなかで掛高が存続できたのは、開校以来一貫して地元の皆様に支えられてきたからだと思います。昨年度七十周年を迎え、そのことを改めて強く感じた次第です。

平成十六年三月二十五日に発行された「創立五十周年記念誌」は編集にも携わりましたが、それを懐かしく読み返したところです。その編集後記に次の文章がありました。

「おれが生まれると間もなく或る夜更けに、一人の男がやって来た。その男はおれの手にふれこう言った。『おれは町長だが、この町は山間僻地で、開発すべきものは極めて乏しい。ただ残されたものは人間だ。人間の開発こそ無限である。お前はこの学校の窓として、生徒達を温かく見つめてやってくれ、お前達が忠実にその仕事を果たす時、やがてこの学校からも立派な人物が巣立ってくれることだろう』と。男の手は冷たかったが、心は熱く燃え、目には学校をつくろうとする執念が宿っていた。」

これは「創立十周年記念誌」のなかの、『窓』と題された旧職員の錦織義夫教諭の文章の抜粋です。全編を通して、自らを職員室の『窓』に例えながら綴られており、本校創立のために尽力された当時の掛合町長 帯刀育郎氏が実際に学校を訪れ、教職員を前にして人づくりの大切さを力説されたそうです。それに感銘を受けた若き青年教師である筆者の熱い思いが、何年たった今でも伝わってくるようで印象深いです。創立当時に尽力された方々の思いや、その当時の教職員、生徒によって注がれた情熱を、我々は決して忘れてはなりません。

掛合高校は、創立以来「地域とともにある学校」を標榜し、生徒・教職員が地域の皆様と深く関わりながら、地域に根差した教育活動を行ってきました。近年は、地域の文化・伝統の継承も力を入れて取り組んでおり、三年間を通した探究活動等の一連の流れがコロナ禍を経てようやくつながってきたところです。

去る三月一日、三年生二十一名が佐中の丘を巣立ち、四月には県内をはじめとする企業や上級学校へと進みます。掛高での多くの出会いや経験を力に、常に感謝の気持ちを忘れず、地域の発展に寄与する人材として活躍してくれることを願っています。

皆様にはこれからも地域全体で学校を支えていただき、学校、家庭、地域が一体となり生徒の教育にあたっていきたいと考えております。今後とも掛高教育活動に変わらぬご理解とご支援ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。

一年生　地域探究学習
～探究学習成果報告会～

一月三十一日（金）五限に校内で一年生探究学習成果報告会を開催しました。

昨年四月十二日（金）に、入学したばかりの一年生たちは、二年生から昨年度一年間かけて掛合町内五地区に分かれて取り組んだ地域学習の成果と課題について報告を受けました。そして、一年生はこの日からその先輩たちの取り組みと思いを引き継ぎ、今年度の自分たちの探究活動を始めました。

これまで、毎週の総合的な探究の時間や週末、夏・冬休みに行われた各地区でのイベント等に参加し、地域の方々と直接かかわりながら地域が抱える課題等に向き合い、その解決策を考えてきました。

十一月十五日（金）文化祭一日目にはその中間発表を行いました。聴衆からの質問等にも受け答えし、いただいたアドバイスをもとにその後も試行錯誤を繰り返しました。

本日はこれまでの取り組みと成果等の最終報告の場であり、各地区の担当の方から直接講評をいただきました。昨年度まではこの時期に各地区に一年生が出向きましたが、今年度は校内開催に変更し、二年生にも聴講してもらい、地区担当の方々には他地区の様子も見ていただく機会となりました。

報告のなかには、高校生目線の斬新なアイデアや工夫、先輩たちのアイデアをさらにブラッシュアップしたものなど、感心させられる取り組みが多くありました。

報告会後は、地区別に分かれて懇談会を行いました。地区ごとに一・二年生と地区担当者、担当教員を交え、振り返りや次年度への改善点等を共有しました。

探究学習に関わっていただいた皆様にはたいへんお世話になりました。この場を借りてお礼申しあげます。ありがとうございました。

二年生　地域貢献学習
～DX✖お米販促・国際交流～

今年度二年生が、雲南市吉田町民谷宇山地区の水田において、田植えから稲刈りにいたる農作業の一部を体験学習し、そこでできたブランド米（「雲南市プレミアムつや姫たたら焔米（ほむらまい）」、「うやま米」、「雪姫舞」）の生産・加工・販売について、宇山営農組合、雲南市、その他関係諸機関と協働しながら、高校生の目線で販売戦略・広報を提案し、台湾で広報・販売する学習活動を行っています。また今年度、掛合分校は文部科学省のDXハイスクール事業に採択され、「デジタルを活用した地域連携」に取り組んでいます。

十月十一日（金）夕方に、二年生の宣伝班三名が宇山地区の田んぼを訪れ、先月収穫したお米の販売促進に向けた「地元ブランド米」のプロモーション活動として、「PR動画制作のためのドローンを活用した田んぼ撮影」に取り組みました。

当日は秋晴れの、気持ちのよい青空のもと、そのドローンを操縦して空撮したり、三百六十度カメラを使って、一般的なカメラでは撮影できない臨場感あふれる映像を撮ったりしました。

次の週には、その映像から「VRを活用した田植えや稲刈りコンテンツ制作」を行いました。

またこれに先駆け、十月七日(月)十三時三十分から、二年生が台湾研修で交流する現地の真理大学生五名とオンラインで顔合せをしました。

台湾研修旅行初日に真理大学の淡水キャンパスを訪れます。訪問直後の歓迎会後に交流活動を行い、淡水散策を行います。生徒たちから掛合分校・雲南市の紹介をし、大学見学・授業体験・クラブ体験等の交流活動を予定しています。

この日のオンラインでは、日本語が堪能な学生さんたちに事前に質問状を渡していましたが、丁寧に回答していただきました。「好きなアニメは?ゲームは?日本料理は?」といった質問は生徒たちの反応も大きく、共感するものがありましたが、「台湾の魅力は?」「なぜ日本語を勉強しようと思ったか?」「台湾で買うおすすめのお土産は?」など、学生さんたちが回答に困るようなよく考えられた質問もありました。

三年生　地域創造学習
～個人課題研究（卒業研究）～

十二月十九日（木）三年生個人課題研究（卒業研究）校内成果発表会を行いました。これは、普段の学習では得難い自主的な研究活動を通して、自分の考えや意見をまとめることを目的に、昭和四十四年から現在まで代々続いています。

三年生「総合的な探究の時間」の地域創造学習の一環として、自分の興味・関心のあること、自身の進路希望・将来にかかわることの中からテーマを決め、これまで個人研究に取り組んできました。書籍やインターネット等を使い調べてわかったことや気づいたことから課題を考え、研究の目的を設定し、さらに実験・観察やアンケート、取材などを行いその成果をまとめました。当初はなかなかテーマ設定ができなかったり、研究活動や実験に行き詰ったり、調査が難航したりとそれぞれに苦労がありましたが、発表自体は一・二年生、教職員、地域の方々の前で全員が堂々と立派にできました。これまで培ってきた経験が活かされたものと思います。

三年間の探究活動の集大成として、「交流・発表の掛高」の実践を見ることができました。課題研究に取り組む中で様々な立場の人々との交流があり、今回の発表でそれらを発信し、次の交流へと繋がっていくものもたくさんあると感じました。ただし、三年生個々には失敗やトラブルが生じても次に生かそうと取り組めたか、また合言葉「『向き合う。その先に…』*Face it. Beyond that…*」に対して自分自身に向き合えたか、またその先を見据えることができたかなどぜひ振り返ってもらいたいものです。一・二年生には、三年生たちが研究に真摯に向き合ったこの姿を、ぜひ受け継いでいってほしいと思います。

ご来場いただきました外部の皆様、研究にご協力いただいた関係機関、関係各所の皆さま、この場を借りてお礼申しあげます。ありがとうございました。

二年生　台湾研修旅行
～一人一人の可能性を広げる～

コロナの影響でずっと延期になっていた台湾研修旅行が今年度実現しました。

一日目の十月二十四日（木）は、三刀屋バスセンターに朝四時集合でしたが、保護者の皆様が快く送りをして下さり無事計画通り出発することができました。朝早くに各集合場所へ送り届けるためには何時に子どもを起こし、何時から準備をさせ、食事をさせてくださったのだろうかと思うと、感謝しかありません。

借り上げバスで広島空港へ向かい、チャイナエアラインで台湾へと出発しました。到着後、現地ガイドさんの案内で真理大学へ行きました。歓迎のセレモニーの後、代表生徒がパワーポイントを用いて掛合町や掛合分校の紹介をおこないました。中国語講義では、日常会話で使える例文を楽しくレクチャーしてもらいました。また、クラブ体験では、アーチェリー部の学生の皆さんに指導してもらいながら射撃体験をし、時間を忘れて楽しみました。初日から前も見えないほどの豪雨に見舞われ、急遽予定していた大学周辺の街散策と台北一〇一タワーでの夜景展望が中止となったのは残念でした。

二日目の十月二十五日(金)は十分、九份の観光、微風南山店でのお米販売活動、寧夏夜市散策という予定でした。二日目も傘が役に立たないほどの豪雨でしたが十分での天燈上げ体験、九份での観光を楽しんだ後、今回の研修旅行のメインでもあるお米の販売活動を行いました。入間花田植えの衣装を着て、掛合太鼓の演奏、試食の提供、あてくじなどの催し物をおこない、来客者の方にも大盛況でした。二年生になってからずっと準備を進めていた台湾でのお米の販売が実現し、生徒たちも誇らしかったに違いありません。また、現地の中高生に販売活動を手伝ってもらったり、夕食を一緒に食べたりし、貴重な交流の場となりました。午後から天候が回復したので、お米の販売活動を短縮して一日目に実施をできなかった台北一〇一タワーでの夜景展望を組み入れ台北市内のきらびやかな夜景も堪能しました。

三日目の十月二十六日（土）の最終日は忠烈祠、故宮博物院、龍山寺の観光でした。忠烈祠での衛兵交代式は、衛兵が足音を高々と鳴り響かせて行進する様子を見たり、故宮博物院では、貴重な美術品を鑑賞したりしました。午後は、龍山寺を訪れ、台湾式おみくじをした後帰路に向かいました。

ほとんどの生徒にとっては、初めての海外旅行でありワクワクとドキドキを胸に出発しましたが、いざ行ってみるとあっという間の三日間でした。台湾の生活習慣や文化に直に触れ大いに刺激を受け、寝食を共にすることでこれまで以上に友達との親睦を深め、一人一人が成長し、またクラスの団結が強まった貴重な体験となりました。

雲南市役所の皆様、ＪＡや宇山営農組合ほか関係各機関・団体の皆様、地域の皆様、保護者の皆様に多大なご理解とご支援をいただきましたこと、御礼申しあげます。ありがとうございました。

令和六年度文化祭
～みんなが主役～

十一月十五日（金）、十六日（土）に文化祭を行いました。

一日目、生徒全員が終日講堂にて過ごしました。保護者や地域の皆様にも多数ご来校いただき、生徒たちの活躍ぶりを見ていただきました。

二日目、校舎内外のいたるところで、生徒による企画・展示をし、ＰＴＡや宇山営農組合、キッチンカー、パン業者等による販売活動もさかんに、保護者や卒業生、旧職員、地域の皆様ほか多数ご来校いただき、にぎやかな一日でした。

生徒たち・教職員のすてきな笑顔や生き生きとした表情をたくさん見ることができました。また、参加した皆さん、楽しませていただきありがとうございました。お疲れさまでした。

二日間で全校生徒数を上回る延べ九十九名のご来校がありました。たいへん感謝しております。当日の内容は次のとおりです。

〈一日目〉
- ○オープニング
- ○生徒研究発表
- ○ビブリオバトル
- ○映画鑑賞「メロスたち」
- ○掛合太鼓披露

〈二日目〉
- ○生徒会企画「たからさがし」
- ○フリー企画
- ○ステージ企画
- ○各種表彰・閉会式

令和六年度卒業証書授与式
～掛高三年間の思いを胸に～

三月一日(土)、景山俊太郎後援会長、吉村淳ＰＴＡ会長をはじめ、多くの来賓の方をお迎えし、卒業生二十一名に卒業証書が手渡されました。

答辞では卒業生代表の原田怜奈さんが、中学時代に学校生活に馴染めず、三年間まともに通うことができなくて苦しく、弱くて臆病な自分を変えたいという思いから掛高を選んだことが人生の大きな分岐点だったと振り返りました。緊張や不安を抱いて入学したものの、勉強を基礎から教えてもらい分かりやすく、友達とも気づいたらあっという間に仲良くなり、学校が楽しいと思えるようになった経緯や、三年間の思い出のなかで特にこの一年は、卒業後の進路に向けて積み重ねた面接練習や個人課題につらさや不安を感じても、先生方や友達にたくさん励まされ試験本番に臨めたこと、この三年間がかけがえのない宝物であったことを語りました。また、「掛合分校でしかできないこともたくさんあると思うので、やりたいことに正直になって、悔いのないように過ごしてほしいです。身近には心強い仲間がたくさんいるので、ためらわずに頼ってください。そして、楽しい思い出をたくさん作ってください。」と後輩にエールを送りました。

雲南市民生児童委員協議会
全員研修会で講演

十月二十八日（月）に雲南市古代鐵歌謡館ホールで行われた雲南市民生児童委員協議会「全員研修会」において、講演講師として招かれました。「民生委員・児童委員は、人々がその地域で安心し、その人らしい自立した生活が送れるよう常に住民の立場に立ち、身近な相談支援者として活動をしています。今年度は『児童生徒を取り巻く課題や環境の変化を知る』ことをテーマとし、掛合分校の学校運営や生徒の活動等を学び合い、支援を必要とする人へ情報提供するために計画しました。」という趣旨で声がけしていただきました。

約百二十名の参加者を前に、「『時代が掛高（カケコー）に追いついてきた！』～閉校の危機を乗り越えて～」と題して、生徒数の減少や公立高校の再編計画など、近年の高校を取り巻く状況を説明し、掛合分校がこれらの問題や課題を解決するために取り組んだ、教職員全員が生徒全員を教える「本物の少人数教育」と生徒一人ひとりの自尊感情を育む「本物の地域密着」を両輪とした分校の教育活動について紹介しました。

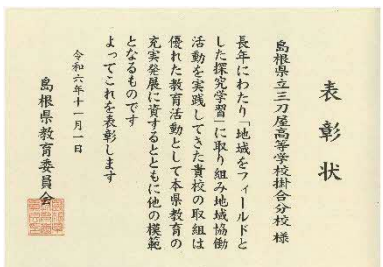
この題目は、昨年十一月十一日に行った創立七十周年記念式典後の記念生徒発表において、発表した三年生がまとめたスライド資料から引用しました。

参加された委員の皆様からは「掛高の様子がよくわかった」「生徒一人ひとりに向き合う先生方の努力がうかがえ、魅力的な学校であると感じた」「分校の現状や存在意義について理解できた」など多くの感想をいただきました。講演の機会をご提供いただきありがとうございました。

令和６年度
優れた教育活動表彰受賞

十一月一日(金)しまね教育の日に、サンラポーむらくもで行われた「令和六年度教育功労者及び教育優良団体表彰式、優れた教育活動表彰式並びに優秀指導者表彰式」において掛合分校の教育活動が島根県教育委員会より表彰されました。

『創立以来、地域に根差し、「地域とともにある学校」を標榜しながら教育活動を行ってきた。そしてこれまで、地域の大人たちとの関わりを深めながら、地域を知り、地域の課題解決のための具体的な提案を行う「地域をフィールドとした探究学習（ＰＢＬ）」の実践を進めてきた。令和四年度に二年生が取り組んだ「掛合分校がうんなんのお米を応援するプロジェクト」においては、地域の営農組合やアドバイザー等に協力いただいた。地域協働体制を構築することで、専門家からプロの視点で継続的な指導を受けることが可能となり、探究学習の持続可能性が高まると同時に、地域の関係諸機関にとっても価値のある取組となった。また、生徒を対象としたアンケートでは、主体性や地域貢献意識が高まったと回答する割合が大きく上昇しており、プロジェクトを通して生徒の主体性や地域貢献意識が育まれていることが分かった。こうした取組は、本県の教育の充実・発展に資するものである。』と評価され表彰されました。ありがとうございました。



表彰状

島根県立三刀屋高等学校掛合分校 様

長年にわたり「地域をフィールドとした探究学習」に取り組み地域協働活動を実践してきた貴校の取組は優れた教育活動として本県教育の充実発展に資するとともに他の模範となるものです

よってこれを表彰します

令和六年十一月一日

島根県教育委員会

『月刊高校教育十二月号』
（学事出版）に掲載

十一月十三日（水）に学事出版株式会社から発売された「月刊高校教育 二〇二四年十二月号」において、掛合分校の沿革や特色、校長の経営方針や経営の工夫などを紹介していただきました。全国の特色ある高校を紹介される「ちょっと拝見 学校訪問」というコーナーです。

演劇同好会に所属した一昨年の卒業生たちの活躍が縁でこの原稿執筆の依頼がありました。

◆事務局より【編集後記】

平素より、後援会の皆様、地域の皆様には掛合高校の教育活動に、格別のご理解とご尽力をいただき、また会費の納入等にもご協力いただき誠にありがとうございます。

生徒の学習活動や施設・設備の充実に役立てて参ります。今後とも変わらぬご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願いいたします。